

## 地域医療介護総合確保基金（医療分）について

### ア これまでの分野別、地域別の活用状況について

#### (ア) 分野別活用状況

##### a 当基金における事業の分野

事業区分Ⅰ：地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業

事業区分Ⅱ：居宅等における医療の提供に関する事業

事業区分Ⅲ：医療従事者の確保に関する事業

##### 【参考】

国が示す標準的な事業例・・・・・・・・ 【別紙1】

#### b 積立額

(単位：百万円)

事業区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計
I	-	2,889	2,000	2,002	11	6,903
II	643	476	108	100	179	1,506
III	3,207	576	1,562	1,330	1,622	8,296
計	3,850	3,941	3,670	3,432	1,812	16,705

※ R元年度（要求ベース）

I : 8 百万円、 II : 259 百万円、 III : 1,553 百万円、 計 1,820 百万円

#### c 分野別の執行状況

(単位：百万円)

事業区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計	平成30年度末残高
I	-	83	1,452	837	561	2,933	3,979
II	98	352	255	260	275	1,240	267
III	1,182	1,411	1,925	1,787	1,476	7,781	530
計	1,280	1,846	3,633	2,884	2,312	11,954	4,776

※ R元年度（当初予算額）

I : 1,769 百万円、 II : 297 百万円、 III : 1,553 百万円、 計 3,619 千円

##### 【参考】

神奈川県県計画に位置付けた事業の概要・・・・ 【別紙2】

#### (イ) 地域別の活用状況・・・・・・・・ 【別紙3】

### 【参考1】国の予算額及び都道府県への配分方針等

- 予算額（公費（＝国2/3+地方1/3）ベース）

H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
544億円	904億円	904億円	904億円	934億円	1,034億円

- 都道府県への配分方針等

- ・ 事業区分Iに重点（H30年度は500億円以上、R元年度は570億円以上）
- ・ 配分後の事業区分間の流用は不可

## イ 今後の活用の方向性について

### (ア) 事業区分Iの活用促進

- 国が示す標準的な事業例では、事業区分Iは、主に施設・設備等の整備に用いることが想定されているが、国が事業区分Iに重点を置いて配分を行う中で、本県では、将来の需要も想定して積立を進めてきた。
- しかし、ハード面の整備を進めるにあたっては、人材の確保・育成など、ソフト面の対応も必要となることなどから、計画と実績の間に乖離が生じている。
- 一方で、地域医療構想の実現に向けて病床機能の分化・連携に資するものであれば、ソフト事業も含め、標準的な事業例に掲げられた事業以外にも活用が可能。
- 今後は、県で策定した「神奈川県地域医療介護連携ネットワーク構築ガイドライン」をふまえて構築するネットワークへの支援策も検討する。
- 引き続き、地域医療構想調整会議等において御意見を伺いながら、事業区分Iについて基金事業としての事業化を目指すこととしたい。

### 【参考】

他県の事業区分Iの活用事例（H30年度計画） ····· 【別紙4】

### (イ) 地域の実情に応じた基金（全事業区分）の効果的な活用の促進

- 当基金は、地域医療構想における構想区域ごとの実情に応じた施策を講じることが可能。
- 地域の実情に応じた施策を検討するためには、事業アイデアの募集を通じて広く御意見を伺うことに加え、地域ごとに御意見を伺うことが重要。
- そこで、地域医療構想調整会議等において御意見を伺い、地域課題の解決に向けた方策を検討し、事業区分II・IIIも含め、基金事業としての事業化を目指すこととしたい。

### 【参考2】国への提案について

本県では、国に対して、「事業区分II及びIIIにも十分な額を配分すること」や、「事業区分間の融通を認めること」などを求める提案を行っており、配分方針に本県の実情が反映されるよう、今後も提案を行っていく方針。